

## 令和5年度第1回館山市総合計画審議会 会議記録

1 日 時 令和5年8月17日(木) 14:00~15:45

2 場 所 館山市コミュニティセンター 1階 展示ホール

3 出席者

委員構成	氏名	役職
市議会議員	石井 信重	市議会議員
	鈴木 ひとみ	市議会議員
	東 洋平	市議会議員
	安田 邦春	市議会議員
産業関係者	安田 信之	館山商工会議所 推薦
	鈴木 久雄	館山市漁業協同組合連合協議会 推薦
	高橋 實	安房農業協同組合 推薦
	平野 直	館山市地域公共交通会議 推薦
	望月 大輝	一般社団法人 館山青年会議所 推薦
	鈴木 知己	館山市地域包括支援センター 推薦
行政関係者	鈴木 勝治	千葉県安房地域振興事務所 推薦
教育関係者	橋本 豊	国立館山海上技術学校 推薦
	守安 委久予	館山市教育委員会 推薦
金融関係者	石渡 雄悟	館山市金融団(二十日会) 推薦
労働関係者	菅野 恵	館山公共職業安定所 推薦
報道関係者	片方 義明	館山記者クラブ 推薦
知識経験者	眞汐 眞一	館山市町内会連合協議会 推薦
	石渡 秀嗣	館山市子ども・子育て会議 推薦
	下妻 洋也	館山市スポーツ協会 推薦
	田中 真由	公募委員
	溝口 かおり	公募委員

(欠席者) 竹内信一委員, 上條長永 委員, 羽山敏雄 委員, 秋山一夫 委員

## 4 議題

- (1) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』について
  - ①成果指標【説明】
  - ②進捗状況【説明】
- (2) 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について  
進捗状況（数値目標・KPI）【説明】
- (3) 地方創生交付金事業について
  - ①地方創生推進交付金事業（効果検証）【協議】
  - ②地方創生拠点整備交付金事業（取組概要）【説明】
- (4) 次期館山市総合計画及び総合戦略の方向性について【協議】
- (5) その他

## 5 会議の経過

1. 開会
2. 市長挨拶

森 市長：皆様こんにちは。館山市長の森でございます。本日はご多用の中、「令和5年度第1回館山市総合計画審議会」にご出席いただきまして誠にありがとうございます。委員の皆様方におかれましては、日頃から市政発展のためにご尽力賜りまして心から御礼を申し上げます。

また、新たに委員とられました方々には、本審議会の委員就任をご快諾いただき、ありがとうございます。

本審議会は、新型コロナウイルス感染症の影響によりまして4年ぶりの対面開催となります。この間、デジタル化の加速など社会情勢は大きく変容しております。館山市におきましても、オンライン会議の導入などデジタル化が大きく進んだものと考えています。

さて、本日の主な議題は「第4次館山市総合計画『後期基本計画』」事業の政策評価、「第2期館山市まち・ひと・しごと総合戦略」事業の進捗の確認、そして地方創生交付金事業の効果検証となっております。委員の皆様方におかれましては、館山市の更なる発展に繋げるため豊富な経験と見識に基づきまして、活発なご審議をいただきますようお願い申し上げます。

結びに、各界各層の代表であります皆様方には、市政のより一層のご協力をお願い申し上げます。本日はどうぞ宜しくお願い致します。

### 3. 欠席委員の報告

### 4. 議事

- (1) 第4次館山市総合計画『後期基本計画』について
  - ①成果指標【説明】
  - ②進捗状況【説明】

溝口委員：国際交流とインバウンド観光についてお聞きしたいと思います。

まず（資料 2-2 事業No.）91 番，国際交流の推進ということで，今後の事業展開としてこれまで続けてきた国際交流協会を中心とした姉妹都市の交流事業の継続ということですが，国際交流協会の委員の方も多分人数が減っていらっしやって，今後これがどういうふうに継続していくとお考えなのか伺いたいです。

それとインバウンド観光について。これからますます盛り上がってくることを確信していきまして，観光産業としては目玉になってくると思います。館山市は，台湾と積極的にいろいろやり取りされていて，ターゲットとして台湾をお考えなのはわかりますが，全体的な流れとしては「欧米からの裕福層を狙った高付加価値のついた観光」というものをみんなが狙っているのではないかなと思います。館山市としてのお考えを伺いたいです。

事務局：まず，国際交流の関係についてお答えさせていただきます。これまで，国際交流協会がいろいろと先頭に立って頑張っていたと承知しております。コロナの中で，国際交流ができなくなった時期がございますし，その中で会員の皆さんが高齢化したり，「もうやれない」ということでお辞めになったりという状況も十分存じているところではあると思います。とは言いながら，国際交流協会を抜きに交流していくことはできるものではないと思っていますので，どのような形をとっていきべきなのかは国際交流協会と市の両者が，お話をさせていただかないといけないと思っています。なかなか会合も開けずここまで来ましたので，対座式のものができるようになった今年度以降，もう一度スタートをかけて，国際交流協会とどういう形でタイアップするか，どのようなサポートがあるのかを教えていただきながら，ご意見をいただきながら進めていけたらなと思っています。

溝口委員：そうすると，まだまだ未確定だということですね。

事務局：そうですね。

安田会長：私，会長（議長）ですけど，国際交流協会の副会長をやっておりますので，一言よろしいでしょうか。仰るとおり，アメリカとオーストラリアの2国が，ヨットレースの関係で，今まで疎かにしていたものが今ようやくここまで仲良く活動できてきたと思います。ただし，その2国ではいけないので，先ほど台湾の話で出ました，インバウンドの話も。こがねグループの会長である小金晴男さんが，自称インバウンド協議会会長ということで台湾にも私一緒に行かせてもらいました。もっとインバウンドという輪を広げて，進めていけたらなって私自身は思いますし，小金さんにはインバウンド協議会会長として国際交流協会に入会していただきました。近々，委員会も開いて，もっと視野を広げて，これから頑張っていきたいと交流協会の中でも話し合っておりますので，ぜひ溝口さんも国際交流協会にお入りいただいて，活躍いただければと思います。

事務局：溝口委員と会長から力強いお言葉をいただきました。やっぱりここまでやられてきた皆さんの実績がベースになったことは間違いないと思います。この中で人をどうやって入れ替えていくか、新しい人をどうしていくかというのも課題だと思います。その中で市として、どのような形で絡んでいけるか勉強しながら、力強く前に進んでいきたいと思いますので、ご指導をいただければと思います。よろしく願いいたします。

事務局：先ほどのインバウンド全体的な流れとして、欧米の方の来日というのが増えている中で館山市は、台湾に力を入れているところです。確かに、館山市ぐらいの規模の自治体だと一気に世界全土に渡ってインバウンド展開していくのはなかなか難しいのかなと思います。その中で台湾は親日家が多いとか、食べ物も日本人が好んだり台湾の方が好んだりというようなところで共通点も多かったり、という中で台湾にターゲットを絞っていて、先ほど安田会長からもお話がありましたとおり、官民協力してトップセールスに行って、非常に盛り上がってきて、インバウンドの域を超えて、国際交流的に文化・教育などで交流に発展してきているということで、これは一定の効果を上げているのではないかなと思います。

日本国内とか世界情勢を見たときに、確かに今、東京に行っても欧米の方が増えてきているというのが現実だと思います。それを館山市にどうやったら持って来られるのかなというところもあるかと思えます。状況を見ていると、城山に欧米の方が家族連れで訪れたりしているというような現実も目にしております。バスに乗ったら欧米の方がいて、日常的に入り込んでくださっているなというのは肌感覚で思っています。ただ、それを希望的にこちらに引き込めるかという、まだまだそこは力が及ばないところがあるのかなと思います。先ほど安田会長からもお話がありましたとおり、インバウンド協議会というものが結成されておまして、今、6の企業さんに参加していただいてインバウンドのことに关してご協力をいただいているという中で、これから、台湾だけといっても世の中の流れから取り残されてもいけないので、しっかりと方向性を定めながら、何をすべきかを考えながら進めていきたいなというふうに思っています。決して台湾だけというわけではないので、そこにもちゃんと目を向けていきたいなと思っています。

眞汐委員：インバウンドの件で聞かせてください。先ほど台湾は、長年の交流の活動の中で非常にうまく回っているという話は聞きましたが、今、中国が団体ツアーを解禁しまして、アジアの人たちが来る確率っていうのが80何%っていう全体の8割ぐらいだそうです。残った2割をヨーロッパとかアメリカだとかオーストラリアだとかが占めていると。そのアジア人の中で1番多いのが中国人。全体の37%から38%ぐらいだろう言われているようです。

それから、韓国も大統領が変わってから、日本への観光が推進をしているところですが、台湾のことはわかりましたけれども、中国とか韓国といった1番人数が多い国に対してのインバウンドの考え方はどうなのか、どういうことがありますかというのが1つ。

先ほど溝口委員が仰っていたように、この前もテレビでやっていましたけれども、日本

くらい地方空港がある国は珍しいそうです。この狭いところに。ですからリッチな、富裕層のお客様をどうやって取り込んでいったらいいだろうかという話のテーマがテレビでやっておりましたけども、そういう中で、今後の鍵はやはり富裕層の取り組みをどうするかお聞かせください。例を申し上げますと、ホンダジェットをチャーターして、その人たちだけが体験できるような、そういうツアーですね。例えば、大阪から仙台までホンダジェットで飛ぶとのこと。1人当たりのツアーの予算が100万から300万ぐらいの内容だそうですが、そういった部分について、富裕層への仕掛けについて館山市としてどんなふう考えているのかというのが1つ。さっき申し上げた通り中国、韓国の取り組みについてどう考えているのかと、この2点について考え方をお聞かせいただければありがたいと思います。

事務局：まず、最初の韓国、中国に対する考え方でですけども、今のところ中国というと団体旅行が中心なのかなというような気が個人的にはしています。手元に数字があるわけではないので推測の域ですけども。これ、2つ目の質問の富裕層をどうやって取り入れるかということにも関連するかと思いますけども、実際中国、あるいは韓国の方がたくさんこちらに来たときに、館山として受け入れる土壌が整っているかどうか1つの課題かなと思っています。お客様を呼び込むのはいいけど、現実的に市内の宿泊のキャパシティを見たときに、全て受け入れられるかどうかということから考えていかなければいけないと思います。先ほどのヨーロッパとか欧米系の方も含めてですけども、全国各地に、世界中に案内をしていくのも1つかもしれないけれども、受け入れる側としても、体制をしっかりと整えていかないと、むやみやたらに広がっていいのかなというところがあります。来ていただけるに越したことはないですけども、そこはしっかりと足元を固める必要があるのかなというようなことも思っております。

それと富裕層をどうやって取り入れていくかということですけども、そこもやはり同じで受け入れ側の体制っていうものをしっかりと築き上げていかなければいけないかなと思います。東京とかの状況を見ていると、やはり富裕層向けにそれなりの規模と施設をちゃんと整えている、そういうところが受け入れをしているというところもあるかと思っています。ただ、一方でそういう施設を好まない方もいて、古民家風のところを好むというような方もいるかもしれません。なので、とりあえず現状としては、広げては行きたいけれども、それと併せて、館山市の受け入れ体制もしっかり整えていかなければいけないかなというふうに思っています。

石井委員：今回、後期基本計画の進捗状況ということで、227ある事業の中で、後期基本計画は4つの重点プランというものを設けていると思います。「海」の魅力アッププラン、「食」の豊かさアッププラン、「若者」の元気アッププラン、「ふるさと」の誇りアッププラン」ということで。特に4つの重点プランの中で、50を超す重点プランとしての位置づけがあると思います。それで今回の進捗状況についての調査シート等を見ても、重点プランというものが、せつかく計画の中にも赤い字でしっかり位置づけられていたけれど、その記載がなかったので、「これは重点プラン」とわかりやすい

シートの方がいいのかなというのが1つ。

実際に重点プランとして位置づけていた事業があるわけですから、それに対しては個別というのも変ですけど、もう少し具体的な評価があってもよかったのかなというところがありまして。その辺の評価とか対応について何かお考えがあればお聞きしたいなと思います。

事務局：重点プランの位置づけについてどのように評価していくかについてですが、先ほどのご説明、また資料の作りとしましては、重点プランの有無に関わらず、各種事業の評価を行っておりました。ですが、今仰っていただいたとおり、評価も含めて重点的に行うべき事業として計画を載せておりますので、冊子のように“重点”とわかるように1つ1つの事業を目立つような形で作った方が良かったかなと、今ご意見をいただいて反省している次第でございます。なので、次回の総合計画審議会の資料作成にあたっては、今いただきましたご意見を踏まえて、もう少しわかりやすいように、重点のところは皆様にとっても私達にとってもわかるようにしたいなと考えました。

## (2) 『第2期館山市まち・ひと・しごと創生総合戦略』について

### 進捗状況（数値目標・KPI）【説明】

溝口委員：耕作放棄地の話で、これは数字のデータが間違っていたので直した結果、面積が減少したということであるのであれば、実際に耕作放棄地が減っているということではないということですか。

事務局：耕作放棄地の数値のお話ですけども、減ってはいません。逆に令和3年度からは令和4年度にかけて10ヘクタールほど増えているという状況でございます。

溝口委員：水色になっているのは、数値としては減ったけれども…どういうことですか。水色は改善しているということですね。

事務局：そうです、改善してないということで数値が増えたということです。

## (3) 地方創生交付金事業について

### ①地方創生推進交付金事業（効果検証）【協議】

### ②地方創生拠点整備交付金事業（取組概要）【説明】

質疑なし

#### (4) 次期館山市総合計画及び総合戦略の方向性について【協議】

鈴木ひとみ委員：「デジタル技術を活用した地方創生」ですけれども、この方向性で策定することは、国等からの提案されていることなのでしょうか。

事務局：国の方の総合戦略においては、すでにデジタル化の推進をテーマとして作られています。

基本的に「国の方向性に勘案した内容を作るように」という指示が出ています。そのため、国と同じように「デジタル技術を活用した地方創生」をテーマとして策定する必要が出てきます。

鈴木ひとみ委員：私も総合計画と総合戦略を一緒にしたらいいと思いますけども、総合計画というのはあくまでも、ここに住む人たちの暮らし、それから市として今後どうやって成り立っていくかを考えていくのが総合計画で、デジタル技術というのはあくまで手段だと思います。デジタル技術を活用するのは、人口が減る中が必要ではあるけれども、それを中心に置くのはどうなのかなど。それよりも、ここの人の暮らしをどうしようという方が大事じゃないかと考えるので、総合計画を考えていくときに、デジタル技術は必要です。人口が減っていくのは当たり前のことで、高齢者も増えていく。その中で労働人口をどうしようか考えたときには、やっぱりデジタル技術を使わないわけにはいかないけれども、それを目的化しないような総合計画の作り方をお願いしたいなと思います。

事務局：「デジタル技術を活用した地方創生をテーマにして、総合戦略を作りなさい」ではありませんが、「総合計画全部をデジタル化にすべき」というわけではありません。これまでもありました事業はそのまま継続、必要ないものだったら切り捨てだったり、逆に進化させたりするという必要になりますが、その中でも例えば「デジタル化はこういうものでやっていきます」、「デジタルが関係ないところはこういうふうにやっていきます」という形でデジタルではない部分についても計画の中に盛り込んでしまっただけで問題ないことになっております。あくまでも「計画の中に今までの総合戦略として書いていたもの、KPIとか事業評価、そういったものも含まれていれば、それを1つの戦略として見てもいいよ」というふうに国から言われているものになりますので、ご指摘いただいたとおり、何でもかんでもデジタル化ではなく、あくまでも必要などころに「館山市としてこういう形でデジタル化を推進していくべきだ」と、全体の計画の中の一部で取り入れるという形にしていくつもりでおります。

東委員：資料としては市が重点的にやっている事業を知るのに適した資料で、とてもわかりやすいものだったので、新人議員としてもありがたいことですが、「審議会」という会なので、審議をすることがどの程度行われるのかなというのを私は注目して今日は参加させていただいたのですけれども、この膨大な市の事業が、この資料の中に市役所の職員の方が一生懸命短く纏めてくださっている中で、それを1つひとつかいつ

まんで審議するっていうのは、難解なことではないかなと感じました。自分もここで質問はしたのですが、それって市役所の担当課に質問すればよかったのかなと思ったりもして。逆にコストをかけていただいちゃっているなっていう感じがしました、正直なところ。総合計画とか総合戦略なので、全てのものを開示するということが重要ですし、それをいろいろ検討した上で今こうなっているのはわかります。ただ、ここの場所で重点的に審議が行われるべき事業について、各分野の方々が一堂に会しているわけですので、一言ずつでもコメントがもらえるような会が審議にふさわしいのではないかな、というふうに感じたところが実は本音なことでありまして。どうやったらいいのかっていう話になりますけれども、私としては227の事業のうち、事前に委員からアンケートを取って「この問題は市の未来にとって大変重要だと思う」というのを複数選択可でもいいと思うのですが、その上で1番多かったものを選択するだとか、市長の独断で「これを審議してほしい」ということでも、ありではないかなと思いました。これは意見であるので、反映していただけるかわからないですけれども、これほどの方々が集まっているのに、審議というよりは一問一答で終わってしまうのは大変もったいないなというふうに実感しまして、一言意見として述べさせていただきます。

事務局：私達も、この資料を整理していきまして事業数も多く、見ていただくのもかなり大変だなということは実感しております。令和6年度から次期総合計画作成の準備に入っていきますけれども、構成の仕方、事業の捉え方、さきほど重点事業、重点プランに位置づけられている事業に対する評価というようなものがありました。皆様によりわかりやすくなるような方向性で次の総合計画を作っていきたいと考えております。また、そういったご意見頂戴しながら準備に入っていきたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

石井委員：基本的なことですが。今聞かれていることは、総合計画に総合戦略を取り込んで一体的な管理というところがテーマだと思いますので。総合計画と総合戦略自体は何年で策定しなくてはいけないといった決まりはありましたっけ。

事務局：総合戦略、総合計画につきましては「何年間の計画にしてください」とか、「何年から何年までにしてください」という決まり事はありません。国からは、「国の総合戦略の期間を勘案して設定するように努めてください」という通知のみになっておりますので、地域の実情に合った戦略の期間とすることとなっております。

石井委員：現行も、ちょうど計画も戦略も令和7年度でちょうどタイミングがいいように聞いています。今後も本当に次の総合計画と戦略等を、一体化して取り組んで管理していこうということには私もいろんな観点からやはり賛成かなと思っております。その中で今後、これは次期の計画についてはこれからもちろん検討されることではあると思うのですが、例えば、総合計画も以前は多分15年単位であったと思います。それがやっぱ今の社会情勢だとかいろんな環境の変化の中で、今の第4次なんかは10年の総



合計画，その中でまた前期・後期を5年ずつに分けてという形をとられていると思いますが。今の社会情勢等いろいろ考えれば，やはり次の計画も，例えばですけど10年という見方で，また同じようにまた前期・後期で分けるかわかりませんが，その中でやっぱり戦略も一緒に盛り込んでいくのであれば，同じようにやっぱり5年ずつにするとかというように，ただ取り込むだけでなくて期間的なものも一体的にやはり総合して勘案していくべきじゃないのかなということは考えております。そういったことも含めて，今回一番に皆さんにご協議を図りたいという意味での総合的管理で1つにまとめていくということに関しては，私もその方がいいかなと思いました。

安田会長：事務局案の総合戦略を次期総合計画に取り組み，一体的に管理することについて，賛成の方は挙手をお願いいたします。

全員一致ということになりました。それでは賛成多数により，一体化して制作を進めていくということで決定をいたしたいと思えます。

## (5) その他

質疑なし

事務局：次回の審議会の開催についてですが，来年度から次期総合計画の策定作業が始まってまいります。そのため，来年度の審議会は本日行いました計画の進捗確認の審議会とは別に，次期計画の策定に向けた審議회를複数回予定しているところでございます。その際は，また改めてご連絡させていただきますので，よろしく願いいたします。それでは長時間にわたりましてご審議また貴重なご意見をいただきありがとうございました。以上をもちまして総合計画審議会を閉会いたします。本日はありがとうございました。